



市政・教育功労等表彰式

11月23日(日・祝)、今市文化会館で平成26年度市政・教育功労等表彰式を開催しました。市民栄誉賞の石幡忠雄氏・藤澤梯史氏・小池詩織氏を始め、市政や教育行政に功労のあった方々や、市に寄付などを行った方々への表彰、模範児童・生徒の表彰を行いました。



日光ハイウェイマラソン
11月29日(土)、第1回日光ハイウェイマラソン(「日光をランナーの聖地」とする実行委員会主催)が、日光宇都宮道路などで開催されました。
今回が初開催となるこの大会は、自動車専用道路をコースにした全国的にも珍しい大会です。
当日は、朝から雨が降るあいにくの天候でしたが、フルマラソン(42・195km)に1,428人が、

ハイク(10km)に1,313人が参加し、初冬の日光路で健脚を競いました。
茨城県水戸市から会社の後輩と3人で参加した、市村学さんは、「日光に旅行に来た時に、マラソンの開催を知りました。今までは、ハーフマラソンの経験しかなく、フルマラソンは初めての挑戦です。完走目指して頑張ります」と気合いの入った表情でした。

日光ハイウェイマラソン

報徳二宮神社例大祭



11月17日(月)、今市報徳二宮神社で報徳二宮神社例大祭が行われました。

この祭りは、学問と経営の神様として知られる二宮報徳の命日である11月17日に毎年行われ、二宮尊徳の子孫をはじめ、全国各地から多くの崇敬者が参加します。祭典では、巫女神楽の舞の一種である、浦安の舞奉納や報徳の訓の斉唱などが行われ、境内は荘厳な雰囲気になりました。

祭典終了後には、余興として奉納のど自慢大会や福がらまきなどが行われ、多くの人でにぎわいました。

奉納のど自慢大会に参加した黒田さん(宇都宮市)は「5、6年連続で参加しています。今年も皆さんが協力して盛大にできて良かったです」とうれしそうに話してくれました。



日光そばまつり

11月22日(土)〜24日(月)の3日間、日光だいや川公園をメイン会場に、今回で13回目となる2014日光そばまつりが行われました。会場には、市内をはじめ、北海道や福井県などから計21のそば店が出店し、それぞれ自慢の味を披露。開店前から行列ができていた店舗もありました。店先では、そばを打つ職人の姿が間近で見られ、きびきびとした職人の



所作に、訪れた人々は感嘆の声を上げたり、そば打ちのコツについて質問したりしていました。
宇都宮市から訪れた矢口益巳さん・美津子さんは「今年で3回目です。香りが良くておいしいです」と、打ちたてのそばを堪能した様子でした。
今回は、紅葉真っ盛りの会場に、3日間で12万1,000人の来場がありました。

生岡神社子供強飯式

11月25日(火)、七里の生岡神社で、市の無形文化財に指定されている子供強飯式が開催されました。
この神事は、無病息災や豊作を祈る伝統行事で、市内の小学生在山伏と強力に扮し、強飯頂戴人に対して口上を述べるものです。山伏が「やい強力、料理をもて」と命じると、床を踏み鳴らしながら強力が登場し、「二粒でも残してはならぬ」と頂戴人を責め立てます。



今回の山伏と強力役は、神山優明斗くん(野口小学校6年)と白鳥太陽くん(日光小学校5年)。二人は、「伝統的な行事なので、参加できて良かったです。指導してくれた方々に感謝します」「伝統的な行事に参加することができ、良い経験になりました。練習の成果を生かせました」と、それぞれ満足した様子で話してくれました。



今月の表紙

日光いろは坂女子駅伝大会

11月30日(日)、第1回日光いろは坂女子駅伝大会が開催されました。今回が初開催となるこの駅伝大会は、「日光をランナーの聖地とする実行委員会」の主催によるもので、日光だいや川公園から中禅寺湖畔の日光二荒山神社中宮祠までの6区間、全長23・4kmのコース上で激闘が繰り広げられました。

参加したのは13大学の14チーム。午前11時30分にスタートした選手たちは、時折日差しが差込む曇り空の中、急勾配で知られる第1いろは坂を真剣な表情で上って行きました。
序盤から好調な走りを見せた東京農業大学Aチームは、1区、2区と連続区間賞。その後も堅実にたすきをつなぎ、1時間30分21秒



のタイムで逃げ切り、第1回の優勝校に輝きました。
2分22秒差の2位には大東文化大学が、3位には大阪芸術大学が、それぞれ入賞しました。
沿道には多くの観客が集まり、懸命に日光路を走る選手たちへ、惜しめない声援を送っていました。